

平成 27～29 年度厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業
「HIV 感染妊娠に関する全国疫学調査と診療ガイドラインの策定ならびに診療体制の確立」班
総合分担研究報告書

研究分担課題名：HIV 感染妊娠に関する国民への啓発と教育

研究分担者：塚原 優己 国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター 産科・医長
研究協力者：谷口 晴記 三重県立総合医療センター産婦人科・副院長
大金 美和 国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センターケア支援室・
看護師
井上 孝実 葵鐘会ローズベルクリニック・副理事長
山田 里佳 愛知厚生連海南病院産婦人科・医師
源河いくみ 東京ミッドタウンクリニック内科・医師
千田 時弘 兵庫県立がんセンター産婦人科・医師
渡邊 英恵 名古屋医療センター看護部・副看護師長
源 名保美 国立国際医療研究センター産婦人科病棟・看護師長
羽柴知恵子 名古屋医療センター外来・副看護師長
廣瀬 紀子 長野県看護大学・助教
笠原 弥恵 仙台医療センター母子医療センター・助産師
矢永由里子 慶應義塾大学感染制御センター・講師
佐野 貴子 神奈川県衛生研究所微生物部・主任研究員
鈴木ひとみ 国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター・コーディネ
ーターナース
長與由紀子 九州医療センター感染症対策室・HIV 専任看護師
山下 結以 九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター 臨床心理士
中條 真澄 国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター産科・研究補助員

研究要旨：

当研究分担班の研究目的ならびに方法は、

市民公開講座の企画や他の団体や機関によるセミナーとの連携を行い、研究成果を広く周知することにより、国民の HIV 感染妊娠に関する認識と知識の向上を図ること。

である。平成 27～29 年度の 3 年間に毎年開催された

第 22 回～24 回 AIDS 文化フォーラム in 横浜、第 5 回～7 回 AIDS 文化フォーラム in 京都、第 2 回～3 回 AIDS 文化フォーラム in 佐賀に参加し、一般市民参加型の公開講座を開催し、市民の HIV 感染妊娠に関する認識と知識の向上をめざした。

また、特に若者への啓発が大切なことから、26 年度は筑波大学において学生を対象とした特別講義「HIV 感染症を含む性感染症の予防策」を行ない、27 年度は長野県看護大学学園祭において大学生を対象としたセミナー「恋する君たちへ ～楽しく過ごすために性感染症について知っておこう～」(2017 年 9 月 9 日(土)、会場；長野県看護大学)を開催した。

A.研究目的

国民に根強く残る HIV/AIDS への偏見を解消し、HIV 母子感染のみならず、HIV 感染をはじめとする性感染症全般に対する国民の理解向上および予防啓発に寄与する。

B.研究方法

行政や HIV 関連諸団体との連携を密にし、市民参加型の公開講座などで、当研究班の研究成果を広く国民に周知することにより、国民の HIV 感染妊娠及び性感染症全般に関する認識と知識の向上を図る。

当研究分担任から国民に発信する情報の主眼は、性感染症全般に関する現状及び予防策の紹介、性感染症のひとつである HIV 感染症の現状と予防策の紹介、HIV 母子感染の現状と予防策の紹介などである。

具体的な活動としては、例年全国各地域(横浜、京都、佐賀他)で行われている AIDS 文化フォーラムへの参加と、大学学園祭などにおける学生を対象とした公開講座を検討した。

(倫理面への配慮)

講演会の実施に際しては、HIV 陽性参加者の心情・プライバシーに十分配慮しながら執り行なった。

平成 27 年度

C.研究結果

1.「第 22 回 AIDS 文化フォーラム in 横浜」(8/7-9:かながわ県民センター)

タイトルは「性感染症と女性」、「講義とディスカッションを通じ、性感染症、自分とパートナーの健康について考えましょう。」というキャッチコピーで市民自由参加の公開講座を開催した。

(発表内容)現在、HIV 母子感染予防対策はほぼ確立し、早期から医療介入ができれば垂直感染の危険性はほとんどない。しかし、HIV の認知度が高まったにも関わらず、その当事者への関わり方に関しては、医療者も含め、未だ根強

く偏見が残っている。また、HIV 感染と同様の経路で感染する STI も多く、若年層の感染拡大や感染者の不妊など問題は尽きない。

そこで今回、「性感染症と女性」というテーマで自分とパートナーの健康について考える機会となるよう厚労省 HIV 母子感染研究班のデータを用いながら、聴講者参加型の講義形式で発表を行った。

進行役からの質問に対し参加者がキーパネルを押して回答すると、簡単なリモコン操作で回答をすることで、質問に対する参加者の反応をダイレクトに表示し、回答状況をリアルタイムに集計できる「リモコン型レスポンスアナライザシステム」を活用回答数が即時に集計され表示される。これを提示しながら講義を進めることで、参加者自身が自分の知識の確認をしながら講義内容を理解できたように思う。また、女性の性感染症に焦点を当てたワークショップとしていたが、講義終了後には男性の立場からの不妊治療に対する質問や高校生から受けた相談への返答の仕方などの質問を受け、具体的な対応策について情報提供や意見交換もでき、テーマの枠を超えた時間を過ごすことができた。産婦人科医師による講義と参加者全員によるディスカッションを通じ、性感染症、自分とパートナーの健康について再考して頂いた。2.「第 5 回 AIDS 文化フォーラム in 京都」(10/3-4:同志社大学新町キャンパス)

タイトルは「女性の健康について考えよう!」、「性感染症、女性の病気、知らないから怖いのかも?いつもは聞けない病気の話、お医者さんに聞いてみよう!!」をキャッチコピーに市民自由参加の公開講座を開催した。

(発表内容)HIV を含む、性感染症、婦人科疾患、女性の健康について、グループディスカッションを挟みながら産婦人科医師からの講義を行なった。グループディスカッションでは、性感染症や、感染後の妊娠・出産について、学生、養護教諭、看護師など様々な立場や職種と一緒に考えを深めることができた。講義終了後

は、産婦人科医師に直接質問できる時間となり、参加者から、普段聞けない性感染症についての疑問や質問が多数あり、活発な意見交換がなされた。今後、参加者自身が今回の発表で聞いたこと、感じたことを、周囲の人に伝えていき、正しい知識や予防への意識の普及に繋げていけることに期待したい。

D.考察

27年度に参加した AIDS 文化フォーラムでは参加者 20 名程度と少数ではあったが、自発的意思で参加くださった出席者自身が、今回の発表で聞いたこと、感じたことを、周囲の人に伝えていき、正しい知識や予防への意識の普及に繋げていけることに期待している。来年度は、今年参加した横浜や京都の AIDS 文化フォーラムでの一般参加者の増加を目指して発表内容を検討したい。さらに、他の地方で開催されている AIDS 文化フォーラム、具体的には AIDS 文化フォーラム in 佐賀、AIDS 文化フォーラム in 陸前高田などの市民参加型イベントにも積極的に参加することを検討したい。また、HIV / AIDS に特化したイベントとは別の視点から、これから生殖年齢を迎える若者をターゲットにした啓発活動も有効と考えられることから、各地の様々な大学が開催する学園祭への参加も検討していきたい。

平成 28 年度

C.研究結果

1 第 2 回 AIDS 文化フォーラム in 佐賀(2016 年 6 月 25 日(土)~26 日(日). 会場; アバンセ)

初めての参加だったので、出席者にわれわれの研究テーマが解りやすいように、「女性と性感染症」と題して講演を行った。

近年増加傾向にある女性の HIV や性感染症、及び HIV と妊娠出産の現状について産婦人科専門医師が解説をした。

HIV を含む性感染症についての発生動向を伝

えたうえで、症状がほとんどない性感染症があり、そのような性感染症では感染している本人が気づかずに放置してしまい、病気が悪化したり相手に感染させてしまったりすることがあること、従来は感染報告の多くは男性だったが、最近では女性の性感染症が増加傾向にあること、性感染症にかかると HIV 感染のリスクを高めることを説明した。研究班は、HIV に関する予防啓発はもちろん、性感染症予防についても啓発していくことが肝要と考えていることを強調した。

女性にスポットを当てた講演内容であったが、女性だけでなく男性数名の参加もあり、また様々な年代の医療関係や教育関係者が参加した。出席者の多くは予防啓発に携わっており、今後の活動に役立てたいとの意見が得られたことは、研究班にとって大きな収穫となった。

また今回の講演では、日本における HIV 陽性妊婦の出産の現状についても紹介した。佐賀県はまだ HIV 陽性者の出産報告はないが、九州内ではすでに 33 件の報告がされている。今後も増加が懸念されており、HIV 陽性者の妊娠出産についても理解が深まることが期待される。2 第 23 回 AIDS 文化フォーラム in 横浜(2016 年 8 月 5 日(金)~8 月 7 日(日). 会場; かながわ県民センター)

「女性と HIV ~学校では教えてくれないけど、みんなが知っておくべきこと~」と題して以下の 2 部構成で講演を行った。

第 1 部では、まず感染予防の基本である標準予防策 (Standard Precautions) についての解説を行った。また、感染予防として手洗いやうがい、マスクの着用の大切さや、実際の感染予防としてインフルエンザやノロウイルス、ジカ熱などの感染予防について説明した。次に、HIV/AIDS の基本知識 (HIV/AIDS と他の感染症の違いや HIV 感染のメカニズムなど) についての教育方法の 1 つである AIDS101 を実際に行いながら紹介した。

第 2 部では HIV 感染と妊娠と題し、日本にお

ける女性の HIV 感染者および妊娠・出産の現状を報告した。また、HIV の感染予防と共に性行為感染症予防の重要性について説明した。さらに、母子感染を防ぐ方法として、妊婦の HIV 検査の必要性、HIV 感染妊婦への抗 HIV 薬の投与、選択的帝王切開の目的、母乳の禁止と新生児への抗 HIV 薬投与について解説した。

妊娠するとは思っていなかった人が妊娠するのと同様に、感染するはずがないと思っている人が感染する。HIV 感染を他人事とせず自分のことと考えると「普段の生活の中から自分の体を大切にしていこう」というメッセージを伝えた。

3 第 6 回 AIDS 文化フォーラム in 京都 (2016 年 10 月 1 日 (土) ~ 2 日 (日)) . 会場 ; 同志社大学新町キャンパス尋真館)

現在、HIV 母子感染予防対策はほぼ確立し、早期から医療介入ができれば、垂直感染の危険性はほとんどない。しかし、HIV への認知度が高まったにもかかわらず、その当事者へのかかわりに関しては医療者も含め、いまだに根強い偏見が残っている。また、HIV 感染と同様の経路で感染する性感染症も多く、若年層の感染拡大や感染者の不妊など問題は尽きない。そこで今回は「恋する君たちへー楽しく過ごすために性感染症について知っておこうー」というタイトルで話を進めた。

若年者向けに自分とパートナーの健康について考える機会となるよう、研究班のデータを用いながら聴講者参加型の講義形式で発表をおこなった。

講義終了後には、男性の立場から拳児希望に対する質問や母子感染予防のために児に注目してどのような予防策をとるのか等質問を受け、具体的な対応策について情報共有や意見交換をすることができた。

4 . 大学生を対象とした当分担任では初めての試みとして、平成 28 年度看護学類特別講義(平成 28 年 12 月 19 日 (月) 6 限 16:45 ~ 18:00 . 会場 : イノベーション棟 8 階) として、看護学

類の学生を対象に「HIV 感染症を含む性感染症の予防策」と題した講演を行った。おもな講演内容は、性感染症の予防、HIV/AIDS の概要、HIV 母子感染についてである。

HIV 感染と同様の感染経路で感染する STI 予防については、学校の中で「性教育」の一部として行われてきているが、若年層の感染拡大や感染者の不妊などが現在大きな問題となっている。そこで、若年層として大学生をターゲットに「HIV 感染症を含む性感染症の予防策」というテーマでの講義を行った。今回の対象は看護学類の 1 ~ 4 年生であり、自分自身の健康について考える機会となると共に、臨床現場に出た際に自分が何をしていくのかがイメージできるように講義内容を工夫した。そこで、HIV を含む性感染症とその予防についてだけではなく、HIV 感染者の長期療養に関する課題や医療者としての対応、HIV 感染妊婦の現状と HIV 陽性の子どもたちへの病名告知に関する問題も講義内容に含めた。

特別講義への参加者は 20 名程度であったが、意識の高い学生が多く熱心に聴いていた。また講義終了後には、性感染症や HIV/AIDS に関する疑問や質問が多数あり、活発な意見交換を行うことができた。意見交換では、性感染症予防に関して幅広い年齢層に感染者がいることから、それぞれの年代への教育の必要性や教育の方法について考えることができた。また、HIV/AIDS については、検査の適切な時期や HIV 感染者が妊娠を望む場合の対応などについて医療者としてどのように対応すべきかについての質問があった。HIV/AIDS については、「職業感染対策」という視点での授業はあっても、HIV 感染者への支援について具体的に聞くことができる機会は少ない。医療を目指す学生にとって、これまでの疑問を解決できる場であるとともに、教育や支援について考えるきっかけになった。

D. 考察

今年度参加した 3 か所の AIDS 文化フォーラ

ムの参加者数は前年同様 20 名程度と少数ではあったが、自発的意思で参加した出席者自身が、今回の発表で聞いたこと、感じたことを、周囲の人に伝えていくことで、正しい知識や予防意識の普及に繋げていけることに期待している。来年度も今年参加した横浜、京都、佐賀の 3 か所の AIDS 文化フォーラムに参加の予定である。各フォーラムでの一般参加者の増加を目指して発表内容を検討したい。さらに、他の地方で開催されている AIDS 文化フォーラム、具体的には AIDS 文化フォーラム in 陸前高田などの市民参加型イベントにも積極的に参加することを検討したい。

また、HIV / AIDS に特化したイベントとは別の視点から、これから生殖年齢を迎える若者をターゲットにした啓発活動も有効と考えられることから、各地の様々な大学が開催する学園祭への参加も検討していきたい。今年度は、看護大学生を対象とした特別講座を組み相応の成果を挙げることができたが、来年度は、一般大学生（或いは一般市民）からも注目されるような企画を検討したい。

平成 29 年度

C. 研究結果

1 第 3 回 AIDS 文化フォーラム in 佐賀：「女性と性感染症～性感染症の現状と妊娠出産との関係～」2017 年 6 月 18 日（日）。会場；アバンセ 参加者約 50 名

今回、HIV を含む性感染症について、産婦人科専門医からの講義を行った。また最近の発生动向についてもお伝えし、近年増加傾向にある性感染症をもっと身近な問題として感じていただきたいと考えた。従来、性感染症報告の多くは男性だが、最近では女性が増加傾向にあり、問題となっている。また、性感染症にかかると HIV の感染リスクを高めることにもなることから、私たち研究班は HIV に関する予防啓発はもちろん、性感染症予防についても啓蒙していきたいと考えている。女性に焦点を当てた講

義はフォーラムの中でも珍しく、多数の女性に参加していただき、参加していた方からも「他人事ではないと感じた」などの声を聴くことができた。また今回の講演では、日本における HIV 母子感染予防対策についても紹介した。HIV 陽性妊婦に早期から医療の介入を行うことで、母子感染は防ぐことができる。そういった実情を知っていただき、HIV 陽性者の妊娠出産についても理解が深まることを期待している。

2 第 24 回 AIDS 文化フォーラム in 横浜：「あなたはホントに知っている！？～HIV 感染妊娠と性感染症のこと～」2017 年 8 月 5 日（土）。会場；かながわ県民センター 参加者約 30 名（満席）

研究班の全国調査より HIV 感染妊娠の現状報告とともに、性感染症についての情報提供、治療や予防について説明を行った。

写真や最新のデータを多用したため、参加者も興味を持って頂いたようであった。30 名定員の会場は満員御礼となり、大変たくさんの方にご参加頂いた。

アンケートの結果、参加者の 7 割は医療系の学生や、保健医療福祉関係の仕事をしている方であったが、感想の中には、「HIV について知識がなかったので、自分に関係ないと思わないようにしたい」「わかりやすく、学びになった」といった意見が多く、医療関係者にも HIV や性感染症について、最新の情報は伝わりにくいと感じた。

参加者のうち、その他 3 割は、教育関連、NPO/NGO の方が多くを占めていた。フォーラムの参加者は、HIV/AIDS に関心のある方が多く、関心を持っていないと、情報へアクセスすることは難しいのかもしれない。しかし、教育関連の方に多く参加頂いたことで、最新の知識が教育の現場で普及されることや、参加者が友人や知人に情報を伝達することで、幅広い年代の人に情報が行き渡ることを期待したい。

3 第 7 回 AIDS 文化フォーラム in 京都：「女

性と HIV ~ 学校では教えてくれないけど、知っておくべきこと」2017年9月30日(土)。会場；同志社大学新町キャンパス尋真館 参加者約15名

HIV を含む感染予防の基本である標準予防策についての解説と、HIV/AIDS の基礎教育の紹介を行った。HIV 感染予防教育として、HIV と AIDS の違いや HIV 感染のメカニズム、抗体検査の意味や HIV とその他の STI との関係について考えながら学習する教育方法を紹介した。

また、HIV 感染と妊娠について、日本における女性の HIV 感染者および妊娠・出産の現状と母子感染予防について説明した。HIV の母子感染は予防できるにも関わらず、妊娠中や母乳育児中に HIV への感染に気づかず母子感染した事例を紹介し、母子感染予防にとっても性感染症予防が大切であることを説明した。HIV 感染を他人事とせず自分のことと考えて「普段の生活の中から自分の体を大切にしていこう」というメッセージを伝えた。参加者からは HIV 感染女性が妊娠した場合の分娩施設や治療方法等についての質問があった。現状としてはエイズ拠点病院での出産が多いことや治療は基本的に妊婦でも変わらないことを伝えた。HIV 感染と妊娠についての情報は少ないため、今後も HIV 感染妊婦の現状や母子感染予防についての情報提供の場としていきたい。

4. 長野県看護大学学園祭：「恋する君たちへ～楽しく過ごすために性感染症について知っておこう～」2017年9月9日(土)。会場；長野県看護大学 参加者約30名

HIV を含む性感染症予防について、大学生を対象にしたセミナーを開催した。これから生殖年齢を迎える若者が、性感染症について自分の問題と認識し、性感染症予防のための知識の向上や自分とパートナーの健康について考える機会になるよう、研究班のデータを用いながら参加型の講義を行った。

大学の学園祭での開催であり、参加者は大学

生と卒業生(1年目の看護師や助産師)、学生の保護者などであった。アンケートの結果、セミナーの満足度は高く、「性感染症について改めて知ることができた。」など知識の向上や、「検査を受けようと思った。」など自分の健康について考えることができていた。内容の理解度については、「性感染症の予防・検査・治療」「性感染症と妊娠の関係」「HIV 母子感染予防」とも『できた・ほぼできた』と全員が答えており、参加型でわかりやすい内容であったと思われる。また、「身近な友人等に性感染症予防についての知識を普及したいですか」の問いには全員が『はい』と答えており、参加者が友人等に伝達していくことで正しい性感染症予防のための情報が拡散することを期待したい。

D. 考察

今年度参加した3か所の AIDS 文化フォーラムの参加者数は佐賀で約50名、横浜の満席(30名)と前年度より増加傾向にあったと思われる。自発的意思で参加した出席者自身が、今回の発表で聞いたこと、感じたことを、周囲の人に伝えていくことで、正しい知識や予防意識の普及に繋げていけることに期待している。可能であれば、来年度も今年参加した横浜、京都、佐賀の3か所の AIDS 文化フォーラムへの参加が望まれる。各フォーラムでの一般参加者の更なる増加を目指して発表内容を検討したい。さらに、他の地方で開催されている AIDS 文化フォーラム、具体的には AIDS 文化フォーラム in 陸前高田などの市民参加型イベントにも積極的に参加することを検討したい。

また、HIV/AIDS に特化したイベントとは別の視点から、これから生殖年齢を迎える若者をターゲットにした啓発活動も有効と考えられることから、各地の様々な大学が開催する学園祭への参加も検討していきたい。今年度は長野県看護大学学園祭において、看護大学生を中心に大学生を対象としたセミナーを組み相應の成果を挙げることはできたが、来年度以降は、

一般大学生（或いは一般市民）からも注目されるような企画を検討したい。

E. 結論

国民の HIV 感染妊娠に関する認識と知識の向上をめざし、毎年横浜、京都、佐賀で開催されている AIDS 文化フォーラムに参加し、一般市民参加型の公開講座を開催した。

また特に若者への啓発が大切なことから、28年度は筑波大学で看護学類の特別講義として「HIV 感染症を含む性感染症の予防策」を、また 29 年度には長野県看護大学学園祭において大学生を対象としたセミナー「恋する君たちへ～楽しく過ごすために性感染症について知っておこう～」を行った。

国民の性感染症、HIV 感染症、HIV 感染妊娠に関する認識はいまだ十分とはいえ、今後とも一般国民のこれら知識の向上をめざし、市民講座などを積極的な展開を継続することが肝要と考えられた

G. 研究業績

1. 論文発表

(欧文)

- (1) Miyuki Kawado, Shuji Hashimoto, Shin-ich Oka, Katsuyuki Fukutake, Satoshi Higasa, Hiroshi Yatsunami, Miwa Ogane, Manabu Okamoto, Takuma Shirasaka : Clinical Improvement by Switching to an Integrase Strand Transfer Inhibitor in Hemophiliac patients with HIV : The Japan Cohort Study of HIV Patients Infected through Blood Products, The Open AIDS Journal, Volume11 2017
- (2) Takeshi Nishijima, Misao Takano, Shoko Matsumoto, Miki Koyama, Yuko Sugino, Miwa Ogane, Kazuko Ikeda, Yoshimi Kikuchi, Shinichi Oka, Hiroyuki Gatanaga. What Triggers a Diagnosis of

HIV Infection in the Tokyo Metropolitan Area? Implications for Preventing the Spread of HIV Infection in Japan. PLOS ONE November 25, 2015.

- (3) Suzuki S, Tanaka M, Matsuda H, Tsukahara Y, Kuribayashi Y, Sekizawa A, Miyazaki R, Nishii O, Nakai A, Mizutani N, Kumamoto Y, Kinoshita K.: Current Status of the Screening of Chlamydia trachomatis Infection Among Japanese Pregnant Women. J Clin Med Res. 2015 Jul; 7(7): 582-584.

(和文)

- (1) 杉野祐子, 島田恵, 池田和子, 大金美和: HIV 感染症/AIDS 患者用知識尺度の作成と信頼・妥当性の検証, 日本慢性看護学会誌, 第 11 巻第 1 号, 2017
- (2) 北村唯一(性の健康医学財団), 熊本悦明, 鈴木俊治, 田中政信, 松田秀雄, 塚原優己, 栗林靖, 関沢明彦, 宮崎亮一郎, 西井修, 中井章人, 水谷伸子, 木下勝之: 本邦妊婦における性器クラミジアの浸淫度調査結果 平成 26 年度 日本産婦人科医会との共同調査, 性の健康 (1883-1478)16 巻 2 号 Page37-38(2017.05)
- (3) 佐野貴子, 嘉手苅将, 渡邊寿美, 近藤真規子, 黒木俊郎, 田坂雅子, 高橋智恵子, 中村廣志, 鮫島まりな, 山下 舞, 田中 聡, 國司洋佑, 太田光泰, 石田倫也, 白井宏幸. ヒトパレコウイルス 3 型による小学生および成人の筋痛症事例—神奈川県 病原微生物検出状況, 38 : 127-128, 2017
- (4) 佐野貴子, 嘉手苅将, 渡邊寿美, 近藤真規子, 黒木俊郎, 田坂雅子, 寺西大, 中村廣志: 手足口病およびヘルパンギーナ患者の発生動向とエンテロウイルス検出状況—神奈川県 病原微生物検出状況, 38:193-195, 2017
- (5) 杉野祐子, 島田恵, 池田和子, 大金美和: HIV

- 感染症/AIDS 患者用知識尺度の作成と信頼・妥当性の検証,日本慢性看護学会誌,第11巻,第1号,別刷,2017年5月発行
- (6) 矢永由里子,大金美和,有馬美奈,石井祥子,紅林洋子,戸蒔祐子,藤平輝明,山本貴子,岡田誠治:長期合併症(悪性腫瘍)のHIV感染者のケアについての考察 -HIV関連悪性リンパ腫の疾患を中心に長期療養時の段階的ケアのあり方を考える-,日本エイズ学会誌 18:240-244, 2016.
- (7) 谷口晴記,千田時弘,塚原優己,喜多恒和:ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染症.産婦人科処方実践マニュアル.産科と婦人科,83増刊号:396 - 401,2016.
- (8) 谷口晴記,山田里佳,千田時弘,塚原優己:HIV 母子感染予防の現状と課題.化学療法の領域,32(5),1019 - 1027,2016.
- (9) 谷口公介,梅原永能,谷垣伸治,塚原優己,山下陽子,佐藤正規,左合治彦:計画無痛分娩について考える.分娩と麻酔,98,42-47,2016.
- (10) 蓮尾泰之,明城光三,和田裕一,鈴木智子,大沢昌二,林公一,五味淵秀人,塚原優己:HIV 感染妊婦に対する受け入れ施設及び地域連携体制に関する全国調査.日本エイズ学会誌.2015:17(3):167-173.
- (11) 佐野貴子,加藤真吾,今井光信.HIV 無料・匿名検査相談の役割 保健所等 HIV 無料・匿名検査相談施設における HIV 検査の現状と課題.日本エイズ学会誌,17:125-132、2015.
- (12) 須藤弘二,佐野貴子,近藤真規子,今井光信,加藤真吾.HIV 郵送検査の現状と展望.日本エイズ学会誌,17:138-142、2015.
- (13) 久地井寿哉,柿沼章子,岩野友里,藤谷順子,大金美和,大平勝美,木村哲.ICF(国際生活機能分類)コアセット7項目版尺度の信頼性と因子妥当性の検証 血液凝固因子製剤によるHIV感染被害者を対象とした分析. The Journal of AIDS Research Vol.17 No.2 (P90-96) 2015.
- (14) 大金美和,小山美紀,木村哲.療養先検討シート.平成27年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「血液凝固因子製剤によるHIV感染被害者の長期療養体制の整備に関する患者参加型研究」,2015年3月.
- (15) 大金美和,鈴木ひとみ,木村哲.情報収集シート/療養アセスメントシート(医療)(福祉・介護).平成27年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「血液凝固因子製剤によるHIV感染被害者の長期療養体制の整備に関する患者参加型研究」,2015年3月.
- (16) 塚原優己:5)常位胎盤早期剥離を早期に診断するためには?.日産婦誌.2015;67(11):2571-2574.
- (17) 棚橋あかり,関口将軌,太崎友紀子,須山文緒,高橋健,大寺由佳,小澤克典,佐々木愛子,三井真理,和田誠司,塚原優己,左合治彦:全身状態が安定して経過し産褥1日目に診断に至った不全子宮破裂の1例.東京産科婦人科学会誌 2015;64(3):460-464.

2. 学会発表

(海外)

- (1) K Sudo, T Sano, M Kondo, T Kawahata, H Fujiwara, N Hasegawa, S Kato. COMPARATIVE EVALUATION OF THE BIO-RAD GEENIUS(TM) HIV-1/2 CONFIRMATORY ASSAY AND THE NEW LAV BLOT 1 AND 2 IN THE JAPANESE POPULATION. 28th Regional Congress of the ISBT. (2017/11/25-28, Guangzhou, People's Republic of China)
- (2) Miwa Ogane, Toshiya Kuchii, Shiomi Shibayama, Akiko Kakinuma, Katsumi Ohira, Megumi Shimada, Kazuko Ikeda

Hiroyuki Gatanaga, and Shinichi Oka.
Influence of aging on QOL of
HIV-1-infected Japanese hemophiliacs.
WFH 2016 World Congress. July, 2016.

(国内)

- (1) 木村聡太,小松賢亮,渡邊愛祈、霧生瑤子,大金美和,池田和子,田沼順子,照屋勝治,塚田訓久,瀧永博之,菊池嘉,岡慎一:当センターにおける HIV カウンセリング受療者の特徴の報告 - 後方視的調査 -, 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会,中野区,2017.11.24
- (2) 渡部恵子,大野稔子,藤田和華子,佐々木晃子,伊藤ひとみ,須藤美絵子,川口玲,高山次代,羽柴知恵子,東政美,丸山栄子,長與由紀子,杉野祐子,大金美和,池田和子:全国エイズ診療拠点病院の HIV/AIDS 看護体制に関する調査(1)~患者ケア実施の現状と課題に関する検討~,第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会,中野区,2017.11.24
- (3) 佐々木晃子,須藤美絵子,伊藤ひとみ,渡部恵子,大野稔子,藤田和華子,川口玲,高山次代,羽柴知恵子,東政美,丸山栄子,長與由紀子,杉野祐子,大金美和,池田和子:全国エイズ診療拠点病院の HIV/AIDS 看護体制に関する調査(2)~患者相談内容とその課題からみる HIV 担当看護師への支援に関する検討~,第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会,中野区,2017.11.24
- (4) 川戸美由紀,橋本修二,大金美和,岡慎一,岡本学,福武勝幸,日笠聡,八橋弘,白阪琢磨:血液製剤による HIV 感染者の調査成績第 2 報生活状況の概要,第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会,中野区,2017.11.24
- (5) 阿部直美,大金美和,久地井寿哉,岩野友里,柿沼章子,大平勝美,紅粉真衣,小山美紀,池田和子,田沼順子,菊池嘉,瀧永博之,岡慎一,木村哲:HIV 感染血友病患者の新たなサポート形成とコミュニティ構築の必要性,第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会,中野区,2017.11.24
- (6) 小山美紀,大金美和,阿部直美,谷口紅,紅粉真衣,鈴木ひとみ,久地井寿哉,岩野友里,柿沼章子,大平勝美,池田和子,田沼順子,瀧永博之,菊池嘉,岡慎一,木村哲:HIV 感染血友病患者の効果的な社会資源利用についての検討:第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会,中野区,2017.11.24
- (7) 田中瑞恵,飯田敏晴,川崎洋平,井出和希,外川正生,塚原優己,吉野直人,喜多恒和,細川真一,瓜生英子,山中純子,大熊香織,山田浩,菊池嘉,岡慎一,七野浩之;HIV 感染児における認知機能と臨床経過の関係:第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会,中野区,2017.11.24
- (8) 吉野直人,杉浦敦,高橋尚子,伊藤由子,杉山徹,田中瑞恵,谷口晴記,蓮尾泰之,稲葉憲之,和田裕一,塚原優己,喜多恒和;我が国の妊婦 HIV スクリーニング検査実施率の推移と妊娠後期での検査実施の現状:第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会,中野区,2017.11.24
- (9) 佐野貴子,近藤真規子,須藤弘二,川畑拓也,小島洋子,森治代,井戸田一郎,岩室紳也,立川夏夫,藤原宏,長谷川直樹,加藤真吾.新規 HIV 抗体確認検査試薬である Geenius HIV Confirmatory Assay の検討.第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会(平成 29 年 11 月 24-26 日,東京)
- (10) 佐野貴子,近藤真規子,須藤弘二,加藤真吾,市川誠一,今井光信.保健所等公的検査機関を対象とした HIV 検査相談体制に関するアンケート調査.第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会.(平成 29 年 11 月 24-26 日,東京)
- (11) 近藤真規子,佐野貴子,長島真美,貞升健志,蜂谷敦子,横幕能行,林田庸総,瀧永博之,渡邊大,吉村幸浩,立川夏夫,岩室伸也,井戸田一郎,今井光信,加藤真

- 吾、椎野禎一郎、吉村和久．日本で流行する HIV-1 CRF01_AE と周辺アジア諸国における流行株との関連．第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会（平成 29 年 11 月 24-26 日、東京）
- (12) 川畑拓也、小島洋子、森治代、佐野貴子、近藤真規子、須藤弘二、加藤真吾．新しい HIV 確認検査試薬“GeeniusTM”の性能評価．第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会．（平成 29 年 11 月 24-26 日、東京）
- (13) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、木村哲、加藤真吾．HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査（2016）．第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会（平成 29 年 11 月 24-26 日、東京）
- (14) 紅粉真衣、大金美和、小松賢亮、近江峰子、久地井寿哉、岩野友里、柿沼章子、大平勝美、阿部直美、鈴木ひとみ、池田和子、渡辺恒二、田沼順子、菊池嘉、瀧永博之、岡慎一：遺族検診受診支援事業における HIV 感染血友病患者の遺族の現状と課題
- (15) 佐野貴子、星野慎二、井戸田一朗、加藤真吾、市川誠一、今井光信．全国保健所における梅毒検査の実施状況調査．第 76 回日本公衆衛生学会総会．（平成 29 年 10 月 31 日-11 月 2 日、鹿児島）
- (16) 田中瑞恵、飯田敏晴、川崎洋平、井出和希、外川正生、塚原優己、吉野直人、喜多恒和、細川真一、瓜生英子、山中純子、大熊香織、山田浩、菊池嘉、岡慎一、七野裕之：HIV 感染児における認知機能と臨床経過の関係．第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会，鹿児島市，2016.11.24.
- (17) 吉野直人、杉浦敦、高橋尚子、伊藤由子、杉山徹、田中瑞恵、谷口晴記、蓮尾泰之、稲葉憲之、和田裕一、塚原優己、喜多恒和：我が国の妊婦 HIV スクリーニング検査実施率の推移と妊娠後期での検査実施の現状．第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会，鹿児島市，2016.11.24.
- (18) 矢永由里子、大金美和、有馬美奈、石井祥子、紅林洋子、戸蒔祐子、藤平輝明、萩原将太郎、加藤真樹子、岡田誠治：がん合併のエイズ患者の長期包括ケアの検討；包括支援のガイドブック作成過程を通して．第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会，鹿児島市，2016.11.24.
- (19) 阿部直美、大金美和、久地井寿哉、岩野友里、柿沼章子、大平勝美、池田和子、瀧永博之、菊池嘉、岡慎一：HIV 感染血友病患者の就労・非就労に関する問題の抽出と支援の検討．第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会，鹿児島市，2016.11.26.
- (20) 渡邊愛祈、西島健、高橋卓巳、木村総太、小松賢亮、大金美和、池田和子、照屋勝治、塚田訓久、加藤温、関由賀子、今井公文、菊池嘉、岡慎一：cART 確立以降の定期通院 HIV 患者における精神科受診率とその特徴．第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会，鹿児島市，2016.11.24.
- (21) 木下真里、谷口紅、杉野祐子、大金美和、池田和子、阿部直美、菊池嘉美、岡慎一：外国人 HIV 感染者療養支援-院外機関との連携について．第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会，鹿児島市，2016.11.25.
- (22) 佐藤恵美、中川裕美子、黒川仁、丸岡豊、大金美和、池田和子、菊池嘉、岡慎一：当院の HIV 感染者における歯科治療と病診連携に関する調査．第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会，鹿児島市，2016.11.26.
- (23) 柿沼章子、久地井寿哉、岩野友里、阿部直美、大金美和、大平勝美：薬害 HIV 感染被害者を対象とした健康訪問相談における支援効果に関する質的評価．第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会，鹿児島市，2016.11.26.
- (24) 佐野貴子、須藤弘二、星野慎二、井戸田一朗、杉浦太一、清水茂徳、近藤真規子、加藤真吾、今井光信、市川誠一：HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情

- 報提供およびサイト利用状況の解析．第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会，鹿児島市，2016.11.24.
- (25) 近藤真規子，佐野貴子，吉村幸浩，立川夏夫，岩室紳也，井戸田一朗，山中晃，武部豊，今井光信，加藤真吾：中国の MSM 間で大流行している HIV-1 CRF01_AE variant の日本国内への拡散．第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会，鹿児島市，2016.11.26.
- (26) 星野慎二，井戸田一朗，佐野貴子，近藤真規子，今井光信，加藤真吾：全国保健所における梅毒検査体制のアンケート調査．第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会，鹿児島市，2016.11.24.
- (27) 須藤弘二，佐野貴子，近藤真規子，今井光信，木村哲，加藤真吾：HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査（2015）．第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会，鹿児島市，2016.11.24.
- (28) 加藤真吾，須藤弘二，佐野貴子，近藤真規子，藤原宏，長谷川直樹：CDC が推奨する HIV 検査手順の検討と HIV-1/2 鑑別検査キット Geenius の検討．第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会，鹿児島市，2016.11.24.
- (29) 谷口晴記，塚原優己，田中瑞恵，杉浦敦，吉野直人，蓮尾泰之，喜多恒和：シンポジウム 4．性感染症の母子感染の現状と課題．3．HIV の母子感染予防対策．日本性感染症学会第 29 回学術大会，岡山市，2016.12.04.
- (30) 大金美和，谷口紅，阿部直美，久地井寿哉，柿沼章子，岩野友里，大平勝美，柴山奈穂美，池田和子，瀧永博之，岡慎一：HIV 感染血友病患者の長期療養における個別対応の必要性和在宅の受け入れ強化要件の検討．第 70 回国立病院総合医学会 2016.11.11.
- (31) 犬塚悠美，鈴木朋，高橋健，棚橋あかり，林田愛唯，佐々木愛子，梅原永能，塚原優己，左合治彦：子宮頸部円錐切除後妊娠における頸管長の推移と分娩転帰についての検討．日本産科婦人科学会第 68 回学術講演会，東京都，2016.04.23.
- (32) 菊池範彦，谷垣伸治，須山文緒，柴田恵，田中里美，金子佳代子，山口晃史，塚原優己，左合治彦：当院における成人先天性心疾患合併妊娠に関する検討．日本産科婦人科学会第 68 回学術講演会，東京都，2016.04.23.
- (33) 松島幸生，谷垣伸治，中村紀友喜，鈴木美奈子，倉員正光，犬塚悠美，鈴木朋，菊池範彦，関口将軌，塚原優己，左合治彦：前置胎盤症例における周術期管理に関する検討．日本産科婦人科学会第 68 回学術講演会，東京都，2016.04.24.
- (34) 関口将軌，谷垣伸治，林田愛唯，村本美華，大寺由佳，木野本智子，小川浩平，佐々木愛子，三井真理，塚原優己，久保隆彦，左合治彦：正常経過をとる双胎妊娠における血小板数の推移．日本産科婦人科学会第 68 回学術講演会，東京都，2016.04.24.
- (35) 大金美和．はじめよう！HIV 感染血友病等患者の医療と福祉の連携．第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会シンポジウム「HIV 感染血友病患者の長期療養～医療と生活の充実を目指して～」，東京．2015 年 12 月 1 日.
- (36) 鈴木ひとみ，大金美和，小山美紀，阿部直美，谷口紅，木下真里，杉野祐子，池田和子，久地井寿哉，岩野友里，柿沼章子，大平勝美，瀧永博之，菊池嘉，岡慎一．HIV 感染血友病患者の長期療養に向けた支援～情報収集と療養アセスメントシートの検討から～，第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会．東京，2015 年 12 月 1 日
- (37) 大金美和，小山美紀，鈴木ひとみ，阿部直美，木下真里，谷口紅，杉野祐子，池田和子，久地井寿哉，岩野友里，柿沼章子，

- 大平勝美, 瀧永博之, 菊池嘉, 岡慎一. HIV 感染血友病患者の療養先検討に向けた支援 プロトコルの作成, 第 29 回日本エイズ学会 学術集会・総会・東京, 2015 年 12 月 1 日
- (38) 佐野貴子, 近藤真規子, 須藤弘二, 今井光信, 加藤真吾. 民間検査センターにおける HIV 検査の実施状況に関する調査. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2015 年 12 月 1 日
- (39) 近藤真規子, 佐野貴子, 井戸田一朗, 山中 晃, 川畑拓也, 森 治代, 岩室紳也, 吉村幸浩, 立川夏夫, 今井光信. 新規 HIV 感染者における年次別感染初期割合の推移. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2015 年 12 月 1 日
- (40) 羽柴知恵子, 伊藤杏奈, 浅海里帆, 横幕能行. あいち医療通訳システム活用による外国人 HIV 陽性者支援. 第 69 回国立病院総合医学会 北海道 10 月 3 日
- (41) 浅海里帆, 羽柴知恵子, 伊藤杏奈, 横幕能行. 名古屋市仕事・暮らし自立サポートセンターとの連携による生活困窮 HIV 陽性者支援. 第 69 回国立病院総合医学会 北海道 10 月 2 日
- (42) 横幕能行, 羽柴知恵子, 伊藤杏奈, 浅海里帆. 地域行政と連携した慢性疾患管理システムの構築. 第 69 回国立病院総合医学会 北海道 10 月 2 日
- (43) 羽柴知恵子, 伊藤杏奈, 浅海里帆, 蜂谷敦子, 岩谷靖雅, 横幕能行. 地域行政と連携した慢性疾患管理システムの構築に関する検討? HIV 陽性者支援における行政サービス活用の効果?. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2015 年 12 月 1 日
- (44) 長与由紀子, 城崎真弓, 小川良子, 城下由衣, 木下一枝, 池田有里, 渡部恵子, 武内阿味, 大野稔子, 成田月子, 杉野祐子, 伊藤ひとみ, 川口玲, 高山次代, 羽柴知恵子, 下司有加, 大金美和, 池田和子. エイズ診療拠点病院 HIV 担当看護師に対する支援の検討「HIV/AIDS 看護体制に関する調査」結果から(その 2) ~ 患者からの相談と課題、支援ニーズについて ~. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2015 年 11 月 30 日
- (45) 小川良子, 城下由衣, 木下一枝, 池田有里, 長与由紀子, 城崎真弓, 渡部恵子, 武内阿味, 大野稔子, 成田月子, 杉野祐子, 伊藤ひとみ, 川口玲, 高山次代, 羽柴知恵子, 下司有加, 大金美和, 池田和子. エイズ診療拠点病院 HIV 担当看護師に対する支援の検討「HIV/AIDS 看護体制に関する調査」結果から(その 1) ~ 患者ケア実施に関する現状と課題 ~. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2015 年 11 月 30 日
- (46) 松岡亜由子, 石原真理, 森祐子, 羽柴知恵子, 蜂谷敦子, 岩谷靖雅, 横幕能行. HIV 感染者における知的機能と ASD 傾向との関連. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2015 年 12 月 1 日
- (47) 石原真理, 羽柴知恵子, 森祐子, 松岡亜由子, 蜂谷敦子, 岩谷靖雅, 横幕能行. HIV 陽性者における自殺に関する調査. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2015 年 12 月 1 日
- (48) 福島直子, 加藤万理, 戸上博昭, 平野淳, 羽柴知恵子, 蜂谷敦子, 岩谷靖雅, 横幕能行. 名古屋医療センターにおける透析導入時及び腎移植時の抗 HIV 剤の選択と有効性に関する調査. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2015 年 12 月 1 日
- (49) 吉野直人, 杉浦敦, 高橋尚子, 外川正生, 稲葉憲之, 和田裕一, 塚原優己, 喜多恒和: 近年の HIV 感染妊娠とその臨床的・疫学的背景に関する検討. 第 32 回日本産婦人科感染症学会学術集会, 宇都宮, 2015.05.23

- (50) 杉浦敦, 石橋理子, 市田宏司, 中西美紗緒, 箕浦茂樹, 高野政志, 桃原祥人, 小林裕幸, 佐久本薫, 太田寛, 藤田綾, 高橋尚子, 吉野直人, 田中瑞恵, 谷口晴記, 蓮尾泰之, 塚原優己, 外川正生, 喜多恒和: HIV 感染判明後の妊娠に関する検討 .第 32 回日本産婦人科感染症学会学術集会, 宇都宮, 2015.05.23
- (51) 喜多恒和, 杉浦敦, 石橋理子, 藤田綾, 中西美紗緒, 箕浦茂樹, 松田秀雄, 高野政志, 桃原祥人, 小林裕幸, 佐久本薫, 太田寛, 多田和美, 吉野直人, 高橋尚子, 外川正生, 田中瑞恵, 谷口晴記, 蓮尾泰之, 塚原優己, 和田裕一, 稲葉憲之:「わが国において HIV 感染妊娠の経膈分娩は推奨できるのか?」. 第 32 回日本産婦人科感染症学会学術集会, 宇都宮, 2015.05.23
- (52) 塚原優己: 日本産婦人科医会共同プログラム 5.事例からみた脳性まひ発症の原因と予防対策: 産科医療補償制度再発防止に関する報告書から 5) 常位胎盤早期剝離を早期に診断するためには? . 第 67 回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜, 2015.4.12
- (53) 杉浦敦, 喜多恒和, 中西美紗緒, 箕浦茂樹, 松田秀雄, 高野政志, 桃原祥人, 佐久本薫, 太田寛, 稲葉憲之, 和田裕一, 塚原優己: 近年の HIV 感染妊娠とその臨床的・疫学的背景に関する検討 . 日本産科婦人科学会第 67 回学術講演会, 横浜, 2015.04.10
- (54) 関口将軌, 犬塚悠美, 田中里美, 三井真理, 谷垣伸治, 小澤伸晃, 塚原優己, 左合治彦: 当センターにおける小児がん経験者の妊娠・分娩についての検討 . 第 67 回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜, 2015.4.10
- (55) 太崎友紀子, 小川浩平, 須山文緒, 犬塚悠美, 田中里美, 塚原優己, 左合治彦: 骨盤位外回転術の術中・術直後の緊急帝王切開分娩の検討 . 第 67 回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜, 2015.4.11
- (56) 大寺由佳, 谷垣伸治, 芝田恵, 犬塚悠美, 鈴木朋, 小川浩平, 塚原優己, 久保隆彦, 左合治彦: 正常血圧妊婦における妊娠初期血圧と妊娠高血圧, 妊娠高血圧腎症発症に関する検討 . 第 67 回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜, 2015.4.12
3. 講演
(国内)
- (1) 大金美和, 治療継続支援と社会資源の活用, 第 66 回日本感染症学会東日本地方会学術集会, 第 64 回日本科学療法学会東日本支部総会, 合同学会, 東京, 京王プラザホテル, 2017/10/31-11/2
- (2) 佐野貴子. HIV 検査. AIDS ネットワーク横浜第 25 期 AIDS ボランティア学校 .横浜 AIDS 市民活動センター .(平成 29 年 7 月 15 日、横浜)
- (3) 研究分担「HIV 感染妊娠に関する国民への啓発と教育」班: 第 3 回 AIDS 文化フォーラム in 佐賀: 「女性と性感染症～性感染症の現状と妊娠出産との関係～」2017 年 6 月 18 日(日). 会場; アバンセ
- (4) 研究分担「HIV 感染妊娠に関する国民への啓発と教育」班: 第 24 回 AIDS 文化フォーラム in 横浜: 「あなたはホントに知っている!? ～HIV 感染妊娠と性感染症のこと～」2017 年 8 月 5 日(土). 会場; かながわ県民センター
- (5) 研究分担「HIV 感染妊娠に関する国民への啓発と教育」班: 第 7 回 AIDS 文化フォーラム in 京都: 「女性と HIV～学校では教えてくれないけど、知っておくべきこと」2017 年 9 月 30 日(土). 会場; 同志社大学新町キャンパス尋真館
- (6) 研究分担「HIV 感染妊娠に関する国民への啓発と教育」班: 長野県看護大学学園祭: 「恋する君たちへ ～楽しく過ごすために性感

感染症について知っておこう～」2017年9月 3.その他 なし
9日(土). 会場;長野県看護大学

- (7) 研究分担「HIV 感染妊娠に関する国民への啓発と教育」班:女性と性感染症.第2回 AIDS 文化フォーラム in 佐賀.佐賀市 アバンセ.2016.06.25.
- (8) 研究分担「HIV 感染妊娠に関する国民への啓発と教育」班:女性と HIV~学校では教えてくれないけど、みんなが知っておくべきこと~ 第23回 AIDS 文化フォーラム in 横浜.横浜市 かながわ県民センター. 2016.08.06.
- (9) 研究分担「HIV 感染妊娠に関する国民への啓発と教育」班:恋する君たちへー楽しく過ごすために性感染症について知っておこうー 第6回 AIDS 文化フォーラム in 京都.京都市 同志社大学新町キャンパス尋真館. 2016.10.01.
- (10) 大金美和,廣瀬紀子:平成28年度看護学類特別講義「HIV 感染症を含む性感染症の予防策」.つくば市.2016.12.19.
- (11) 研究分担「HIV 感染妊娠に関する国民への啓発と教育」班:公開講座「性感染症と女性」:第22回 AIDS 文化フォーラム in 横浜(8/7-9:かながわ県民センター) 内容:講義とディスカッションを通じ、性感染症、自分とパートナーの健康について考えましょう。
- (12) 研究分担「HIV 感染妊娠に関する国民への啓発と教育」班:公開講座「女性の健康について考えよう!」:第5回 AIDS 文化フォーラム in 京都(10/3-4:同志社大学新町キャンパス) 内容:性感染症、女性の病気、知らないから怖いのかも?いつもは聞けない病気の話、お医者さんに聞いてみよう!!

H.知的財産権の出願・登録状況

- 1.特許取得 なし
- 2.実用新案登録 なし